

電波システム海外展開推進会議（第4回）議事概要

1. 日時

平成29年12月13日（水）14:00～14:52

2. 場所

総務省7階省議室

3. 出席者

（1）構成員

綱川構成員（（株）東芝）、遠藤構成員（日本電気（株））、荒構成員（日本無線（株））、佐久間構成員（（株）日立国際電気）、山西構成員（三菱電機（株））

（2）総務省

坂井総務副大臣、小林総務大臣政務官、鈴木総務審議官、富永総務審議官、渡辺総合通信基盤局長、今林国際戦略局長、竹内総合通信基盤局電波部長

（3）外務省

志水アジア大洋州局参事官

4. 議事模様

（1）開会

ア 総務副大臣挨拶

坂井総務副大臣から、冒頭挨拶が行われた。

イ 総務大臣政務官挨拶

小林総務大臣政務官から、挨拶が行われた。

（2）プロジェクト進捗状況等説明

事務局から、各プロジェクトの進捗状況等について、説明が行われた。

（3）海外向けPR映像上映

電波システムの海外向けPR映像（英語版）について、上映が行われた。

（4）意見交換

意見交換が行われた。主な意見は次のとおり。

- これからのIoTの世界の中で、ワイヤレスの活躍する領域が色々出現する。今後はIoTという観点から、トータルのシステムとしてワイヤレ

スの領域を紹介していくことに注力したい。

- 外国のサプライヤーとの協業を含め、世界展開を図っていきたい。
- 電波監視により干渉のない電波環境の維持が必要。各国が協力して電波を監視するというコンセプトは、今後のあるべき姿である。
- 海外では場所を問わず無料で公衆無線LANが使える環境のニーズがあり、国際標準化活動などの輸出しやすくする環境の整備が必要。
- アジアへの展開は、親日国が多いが競合国が存在することから一筋縄ではいかない。外務省や在外公館にも様々な取組の状況や結果を共有し、連携していくことが効果的。
- 途上国でもIoTの重要性に気が付いており、IoTの一種であるスマートシティのプロジェクトを行いたいという話がある。新しいものをどんどん提案していただきたい。
- 昔は、研究して開発して標準化してビジネス化するという流れが一般的であったが、今はどこが先か分からない。外国企業とタッグを組んで展開していくこともあると思う。
- 社会インフラ的な取組は、民間だけではここまでできなかったと思っており、やはり官の支援が非常に重要。

これを踏まえ、坂井総務副大臣、小林総務大臣補佐官からコメントが述べられた。